

1 令和2年度の調査成果について

1) 調査箇所

- ① 登城路跡 4次調査
- ② 三の丸※ 土塁 6次調査
- ③ 沢門下石垣測量調査

※「三の丸」については、江戸時代の絵図等では「東丸」の表記が一般的であることから、今年度策定予定の「整備基本計画」に基づき、令和3年度以降は「東丸（三の丸）」と呼称する。



第1図 令和2年度調査箇所

2) 令和2年度調査区および三の丸周辺における過去の調査区

○三の丸土塁の調査

- 6次調査 (令和2年度)
- 5次調査 (令和元年度)
- 4次調査 (平成30年度)
- 3次調査 (平成29年度)
- 2次調査 (平成18年度)
- 1次調査 (平成17年度)

○登城路跡の調査

- 4次調査 (令和2年度)
- 3次調査 (令和元年度)

○三の丸、巽門の調査

- 博物館改築他に伴う調査 (昭和55年度)



第2図 三の丸（東丸）調査区配置図 (1/2,000)

3) 登城路跡 4次調査の成果

[調査期間] 令和2年5月11日～10月9日

[調査面積] 113㎡ (1・2区)

[調査目的] ・巽門跡周辺における登城路の形状および路面の確認
・登城路に伴う遺構の確認

[調査成果] 1区

<登城路路面および関連遺構>

・巽門から清水門に至る登城路跡で、江戸時代における2時期の路面を確認

新しい路面：【第2路面】(V層上面)・・・18世紀～明治期

古い路面：【第1路面】(VI層上面)・・・17世紀前半～18世紀

・第2路面上で踏み石状に並ぶKS-1180石列とKS-1190石敷を確認

・第2路面下の排水処理に関わる遺構として東西方向に延びるKS-1179暗渠を確認

・第1路面に伴う東西方向に延びるKS-1185石組溝跡を確認

⇒暗渠や石組溝跡などの向きから登城路の延長方向が推定できる

<巽門西側石垣の延長部分における石垣の確認>

・昨年度確認した石垣(KS-1155)の構築年代は近代の可能性あり

→第二次世界大戦以前に一部崩壊

2区

・巽門から子門へ南北方向に延びるKS-1178石組側溝跡を確認

巽門の東側を通り長沼へ抜ける石組側溝跡(H17調査)まで一連の可能性あり



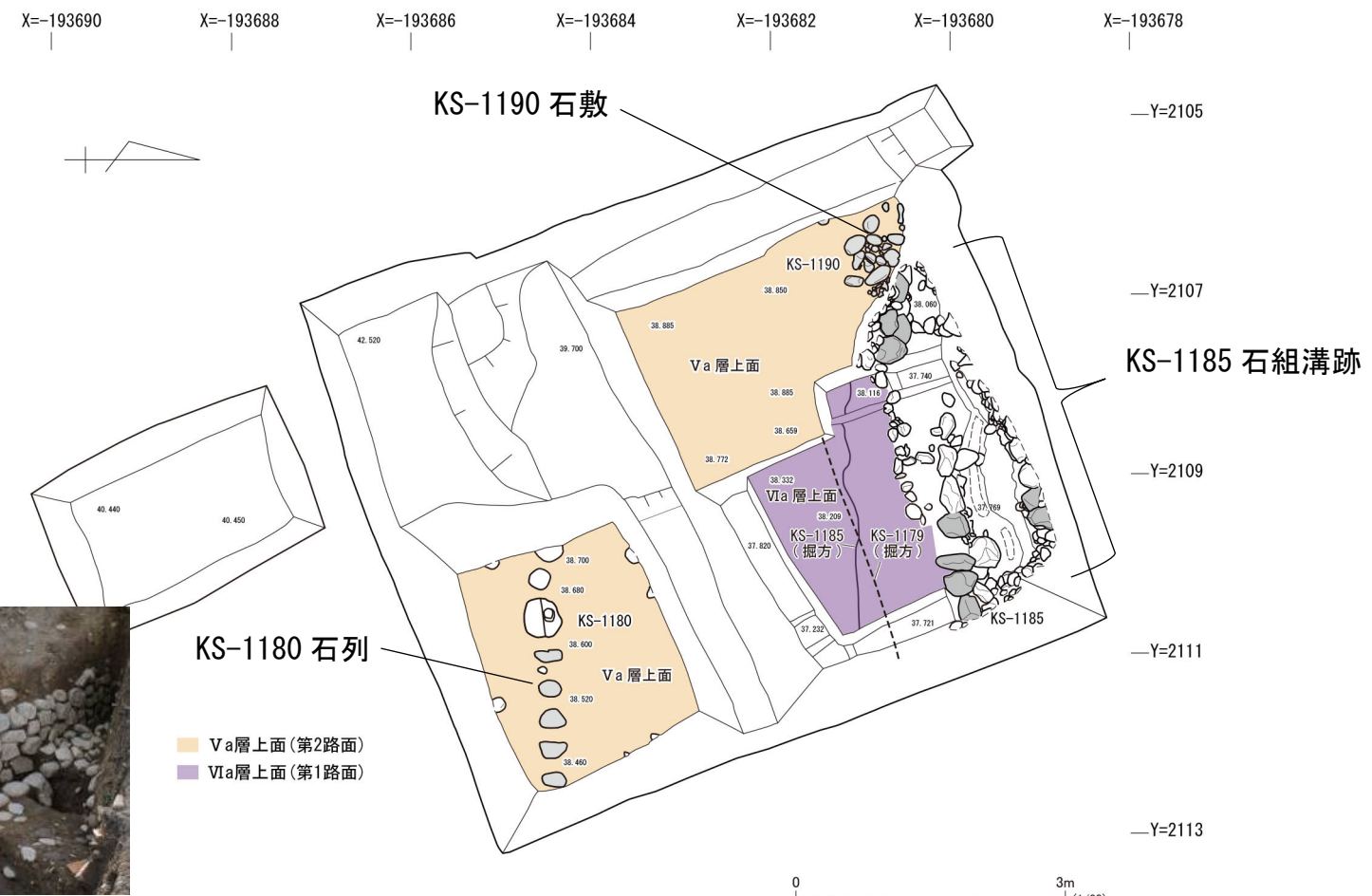
第3図 登城路1区 遺構確認状況 (北東から)



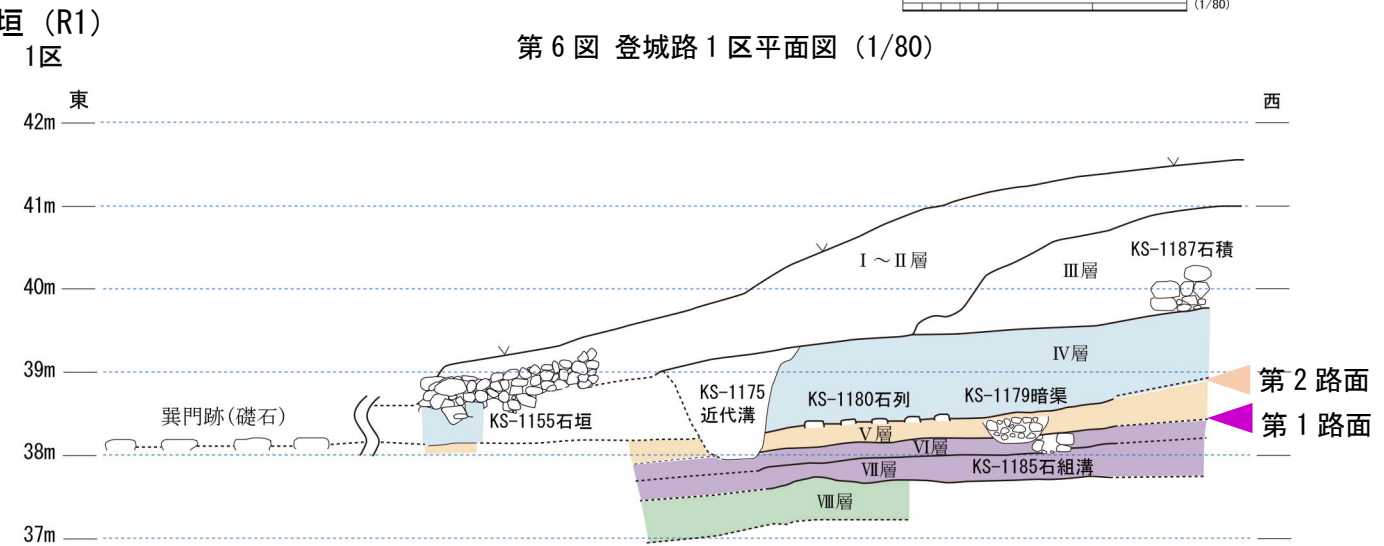
第4図 登城路2区 遺構確認状況 (西から)



第5図 巽門跡から清水門跡周辺の遺構配置図 (1/400)



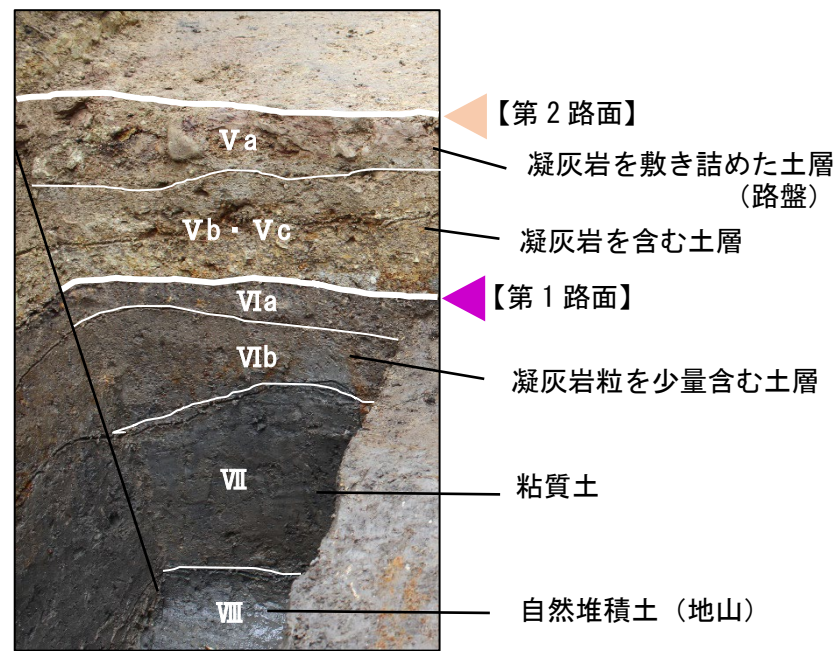
第6図 登城路1区平面図 (1/80)



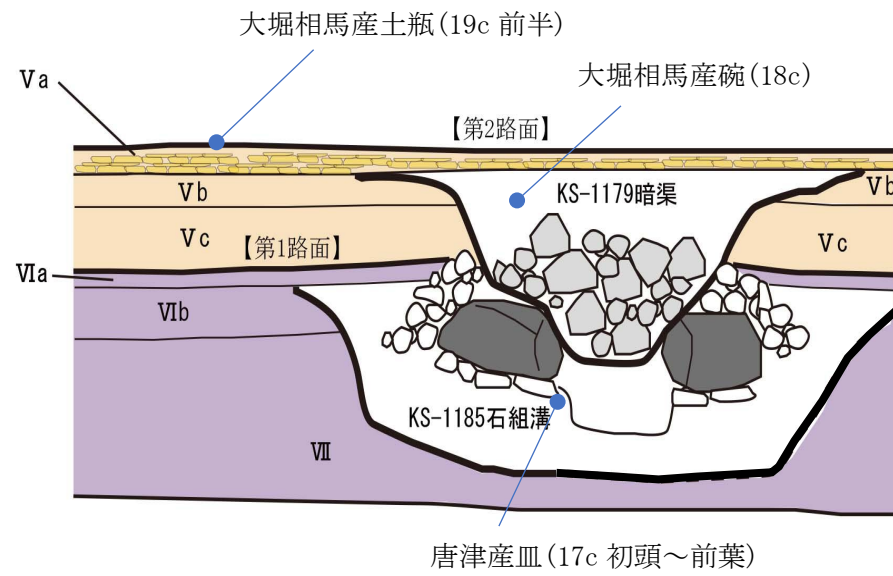
I層	: 現代の堆積層	(現在の表土層)
II層	: 現代の堆積層	(空襲に由来するとみられる溶解したガラスを多量含む)
III層	: 近代の堆積層	(ガラス・レンガ含む)
IV層	: 近代の整地層	(ガラス・レンガ含む 上面に石垣が構築される)
V層	: 近世の整地層	(第2路面の構築に伴う整地層)
VI・VII層	: 近世の整地層	(第1路面の構築に伴う整地層)
VIII層	: 自然堆積土層	(築城以前の堆積土層)

第7図 登城路1区断面模式図

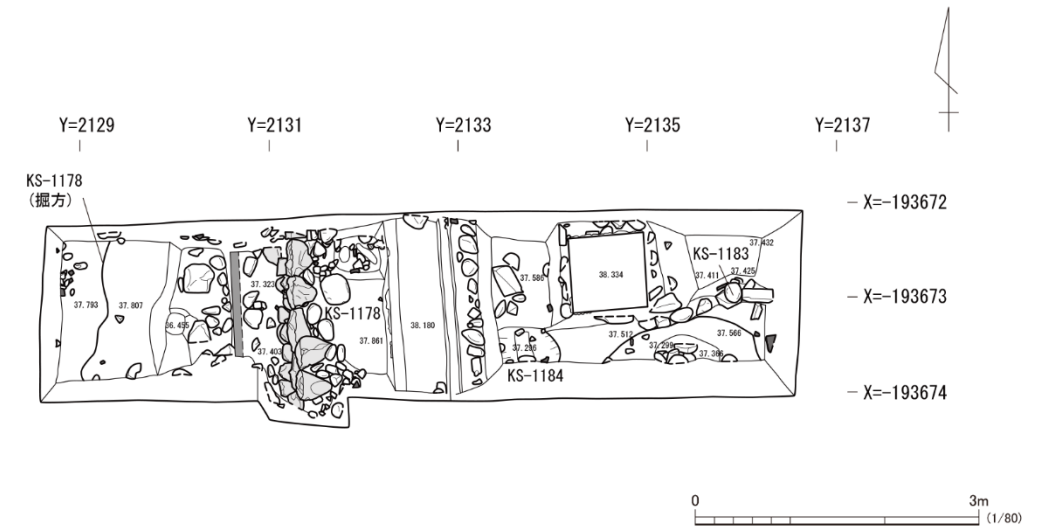
○登城路路面の断面



第8図 登城路1区西壁断面



第9図 登城路1区断面模式図



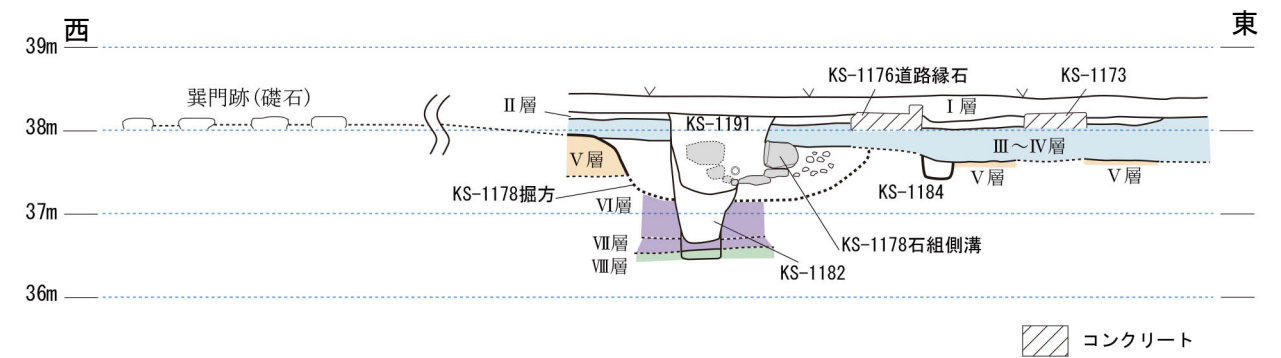
第14図 登城路2区平面図 (1/80)



第10図 登城路1区第1路面確認状況



第11図 登城路1区第1路面の凝灰岩



- I～II層 : 現代の堆積層 (旧博物館期の道路縁石が構築される)
- III～IV層 : 近代の整地層 (第二師団期の盛土)
- V層 : 近世の整地層 (KS-1178 石組側溝が構築される)
- VI～VII層 : 近世の整地層
- VIII層 : 自然堆積土層

第15図 登城路2区断面模式図

○路面に伴う遺構について



第12図 第2路面 KS-1180 石列(北東から)



第13図 第1路面 KS-1185 石組溝跡(東から)



第16図 登城路2区断面(南から)



第17図 登城路2区KS-1178 石組側溝(東から)

4) 三の丸土塁 6次調査の成果

[調査目的] 江戸時代における土塁形状および土塁上の遺構の確認

- ・ 絵図に描かれるも現存していない土塀の痕跡を確認し、その構造や時期的変遷を明らかにする

[調査期間] 令和2年5月11日～10月9日

[調査面積] 60㎡ (1・2・3区)

[調査成果] 1・2区

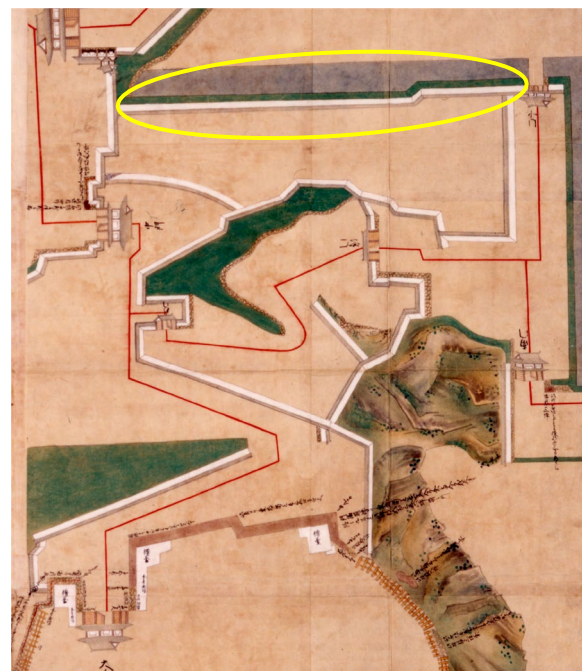
- ・ 土塁の頂部平坦面の堀側に寄った位置で、江戸時代における2時期の石列を確認
⇒ その確認位置と土塁の方向と並行して延長することから塀跡と判断
KS-1166 石列 (Ⅱ層上面) : 【Ⅱ期塀跡】 新しい塀跡
KS-1170 石列 (Ⅲ層上面) : 【Ⅰ期塀跡】 古い塀跡
- ・ これらの遺構は、本来、2列の並行する石列の間に玉石を充填する構造であったと推定
⇒ 仙台城二の丸跡や山形城跡二ノ丸土塁の頂部では、塀跡として報告されている
- ・ Ⅱ層上面で集石遺構 KS-1168・KS-1169、Ⅲ層上面で集石を伴う土坑 KS-1172 を確認
⇒ 塀跡の控え柱に関わる遺構か要検討

3区

- ・ 近代以降における子門石垣の積み直し範囲を確認
- ・ 子門石垣に伴うぐり石の可能性がある玉石の集積を確認
- ・ 土塁積み土 (Ⅵ層: 凝灰岩多量含む) を確認

出土遺物

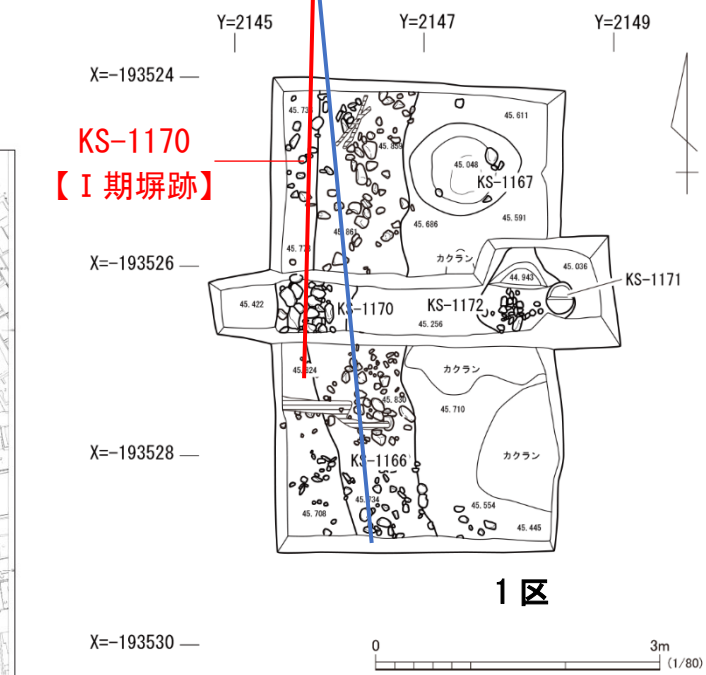
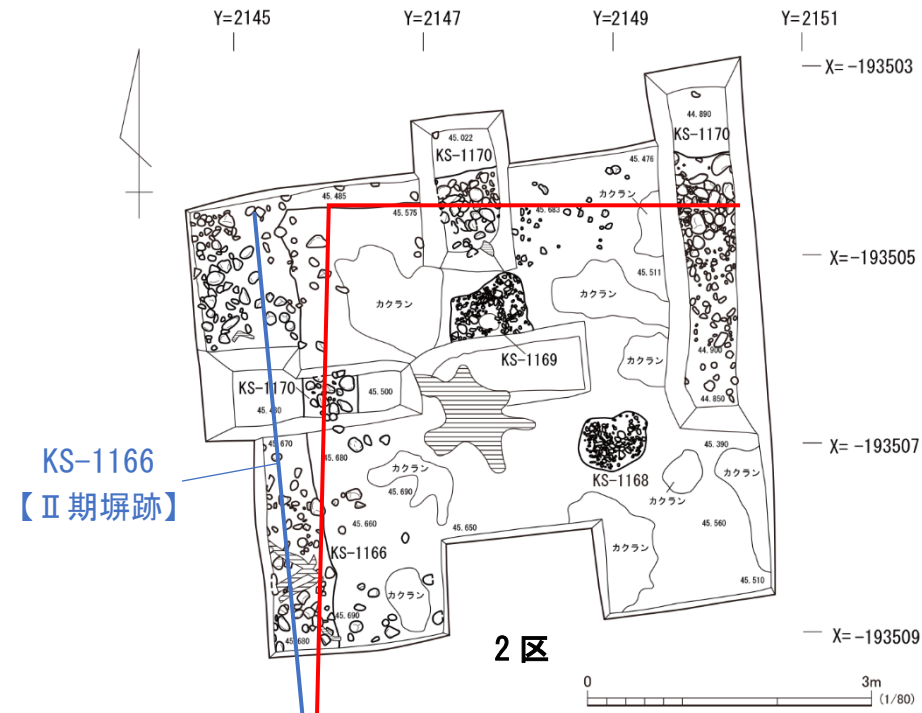
- ・ 瓦 304点中、塀に使用される棧付平板瓦が7点出土
- ・ カスガイ・刀装具の切羽などの金属製品が出土



第18図 「寛文八年修復伺絵図」 寛文8年 (1668) 仙台市博物館蔵



第19図 三の丸(東丸)の地形図と調査地



第20図 三の丸土塁1・2区平面図 (1/80)



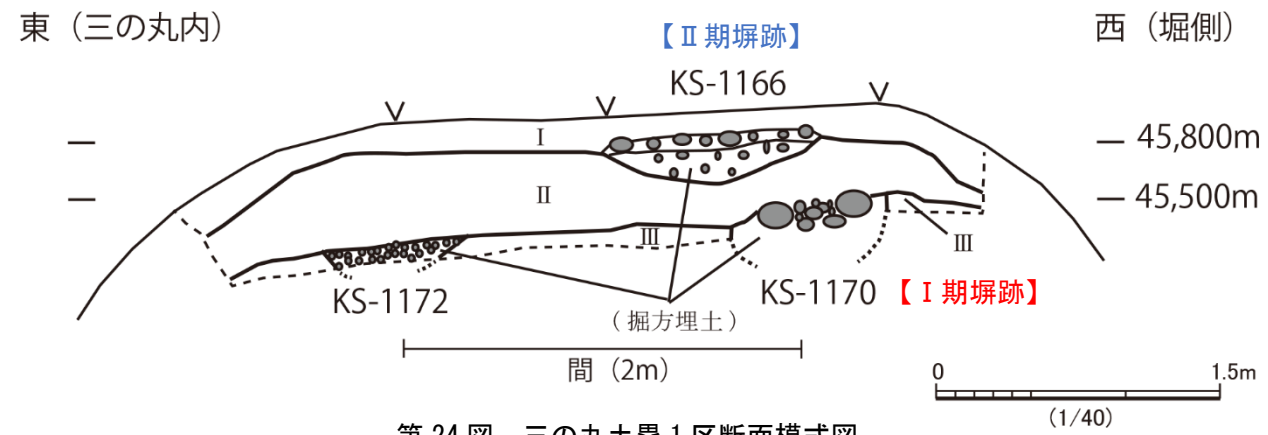
第21図 三の丸土塁2区 KS-1166 (南東から) 【Ⅱ期塀跡】



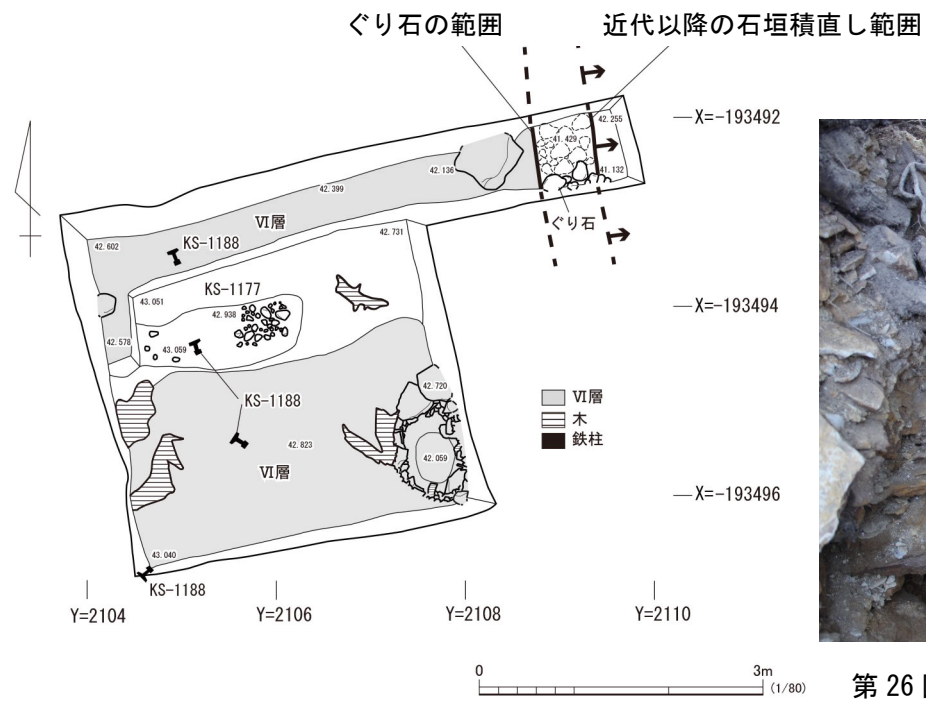
第22図 三の丸土塁2区 KS-1170 (南から) 【Ⅰ期塀跡】



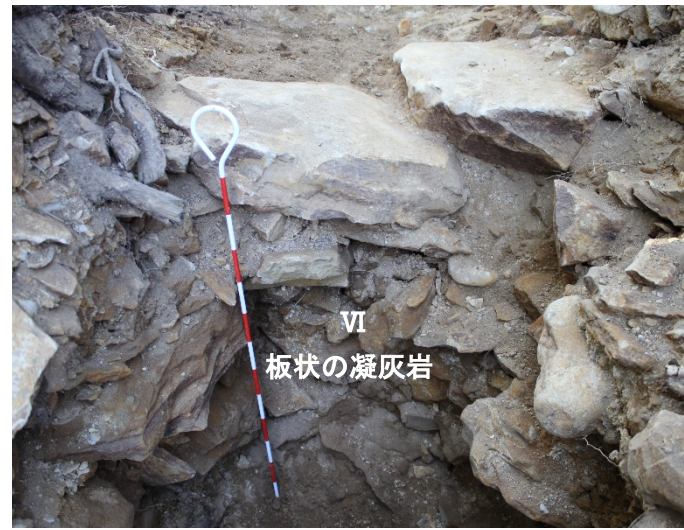
第23図 三の丸土塁1区全景 (北から)



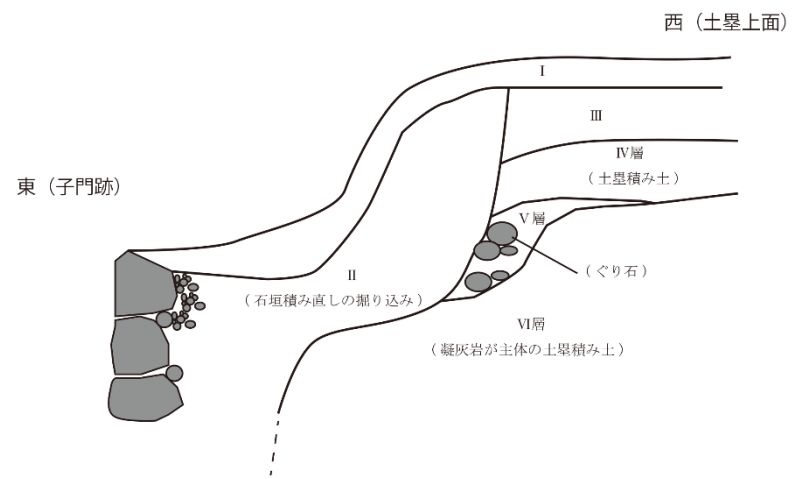
第24図 三の丸土塁1区断面模式図



第25図 三の丸土塁3区平面図(1/80)



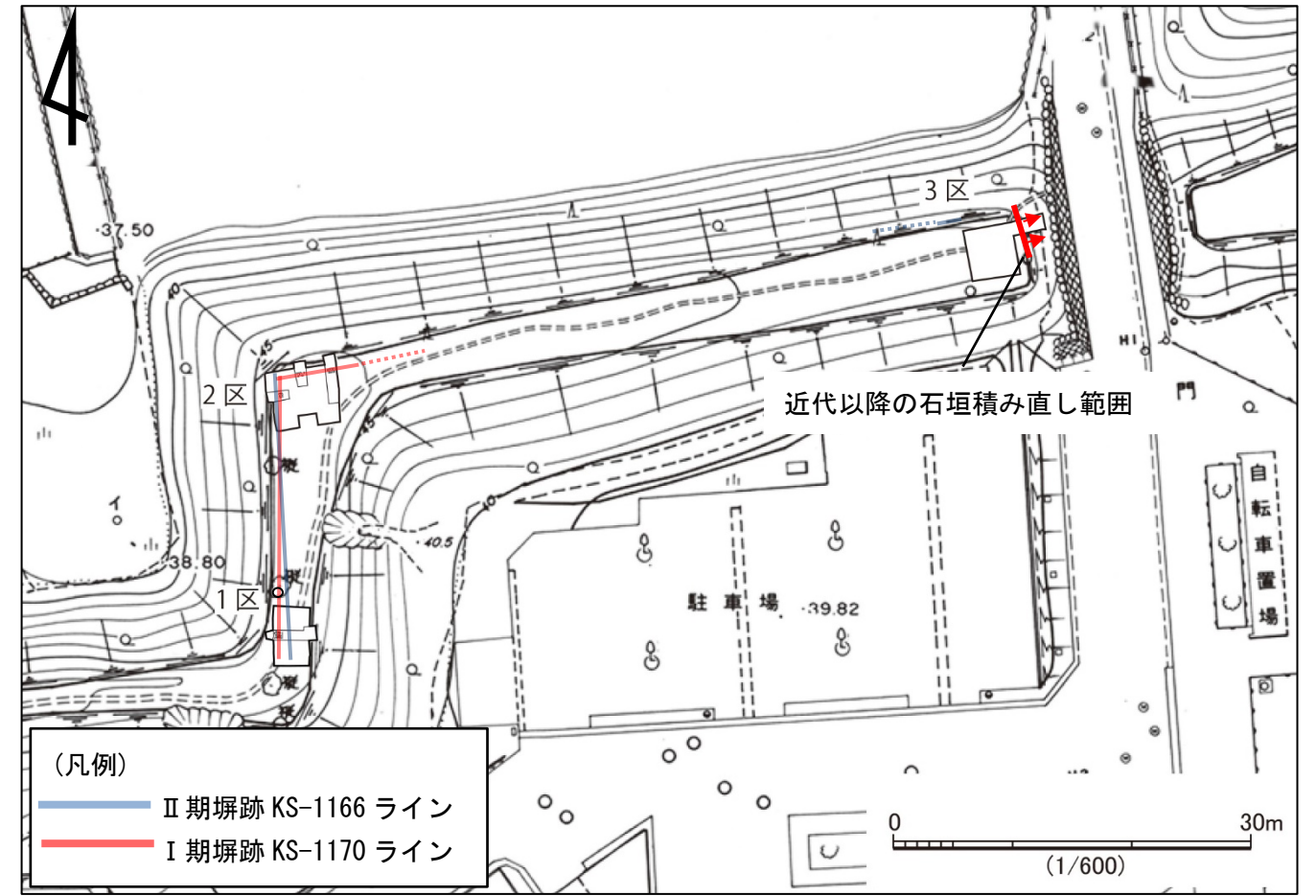
第26図 三の丸土塁3区VI層堆積状況(南から)



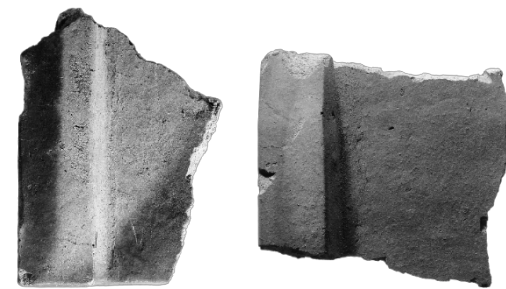
第27図 三の丸土塁3区断面模式図



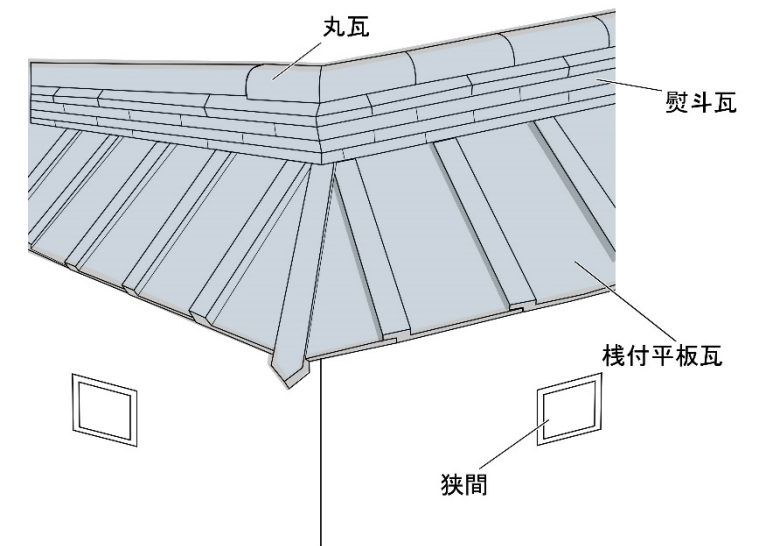
第28図 三の丸土塁3区拡張区南壁(北東から)



第29図 1~3区堀跡に関連する遺構平面図(1/600)



第30図 三の丸土塁出土 棧付平板瓦



第31図 棧付平板瓦 模式図

5) 沢門下石垣測量調査について

[調査目的] 登城路跡周辺石垣の現況確認および整備のための基礎データの収集

[調査期間] 令和2年7月2日～12月18日

[測量面積] 石垣立面：126 m²

[測量内容] 沢門下石垣測量について、石垣立面のレーザー測量を行い、立面図および縦横断図の作成を行った。

[調査成果]

石垣の変状等 (2/13 福島沖地震以前)

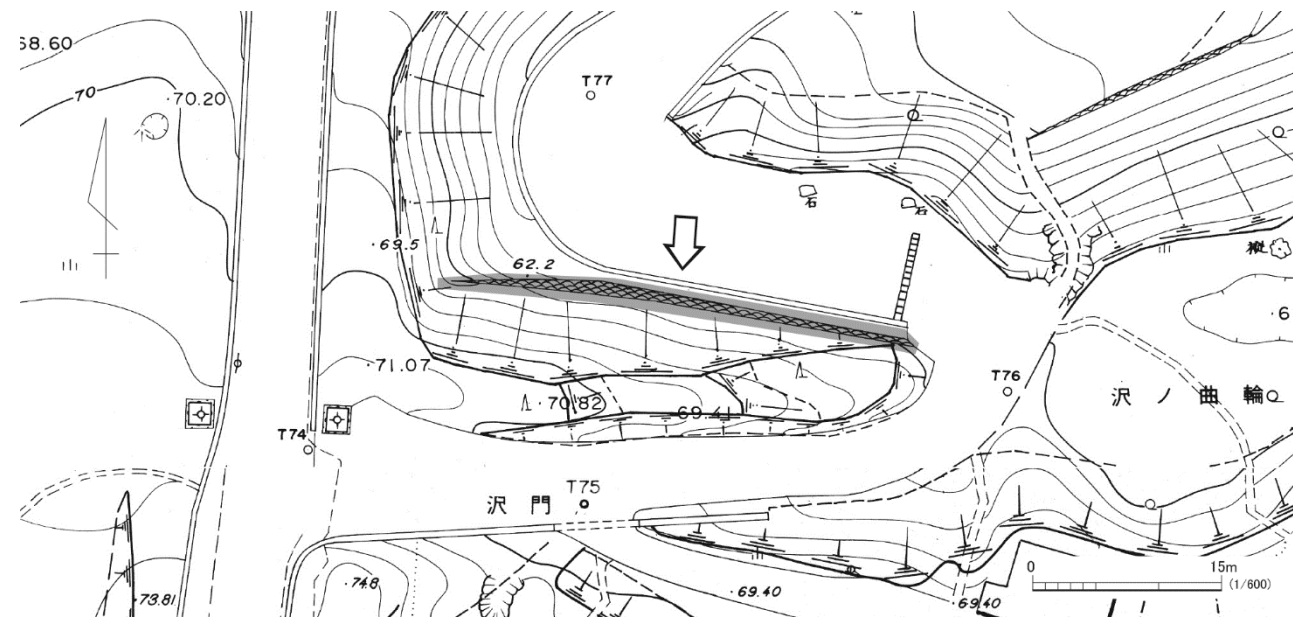
- ・震災以前に実施された平成16年度測量の縦横断図と比較した結果、大きな変状は認められない。
- ・一部、築石のずれと間詰石の欠損箇所を確認した。

石垣の修復履歴

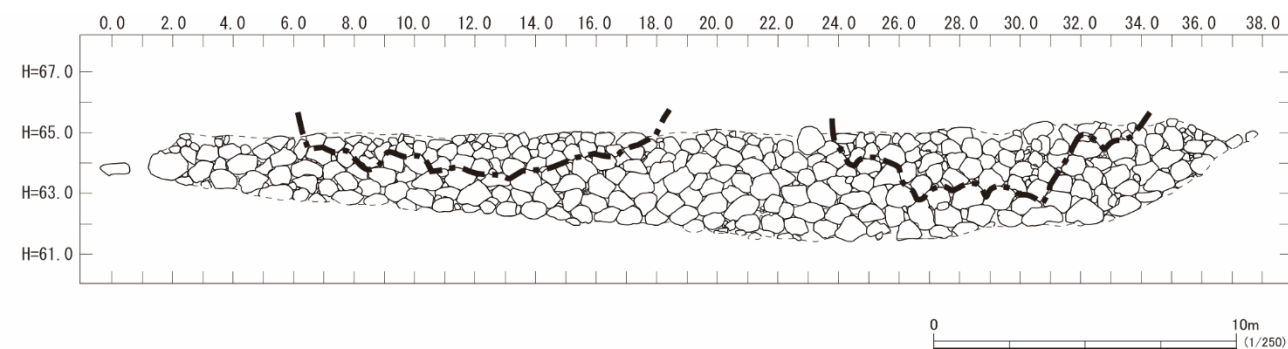
- ・石垣の面東側および西側の上段から中断にかけて目地が通らず、石材が小ぶりになる。積み直しが行われた可能性がある。
- ・現状として絵図・文献資料からは、修復の記録は確認できない。

石垣の年代

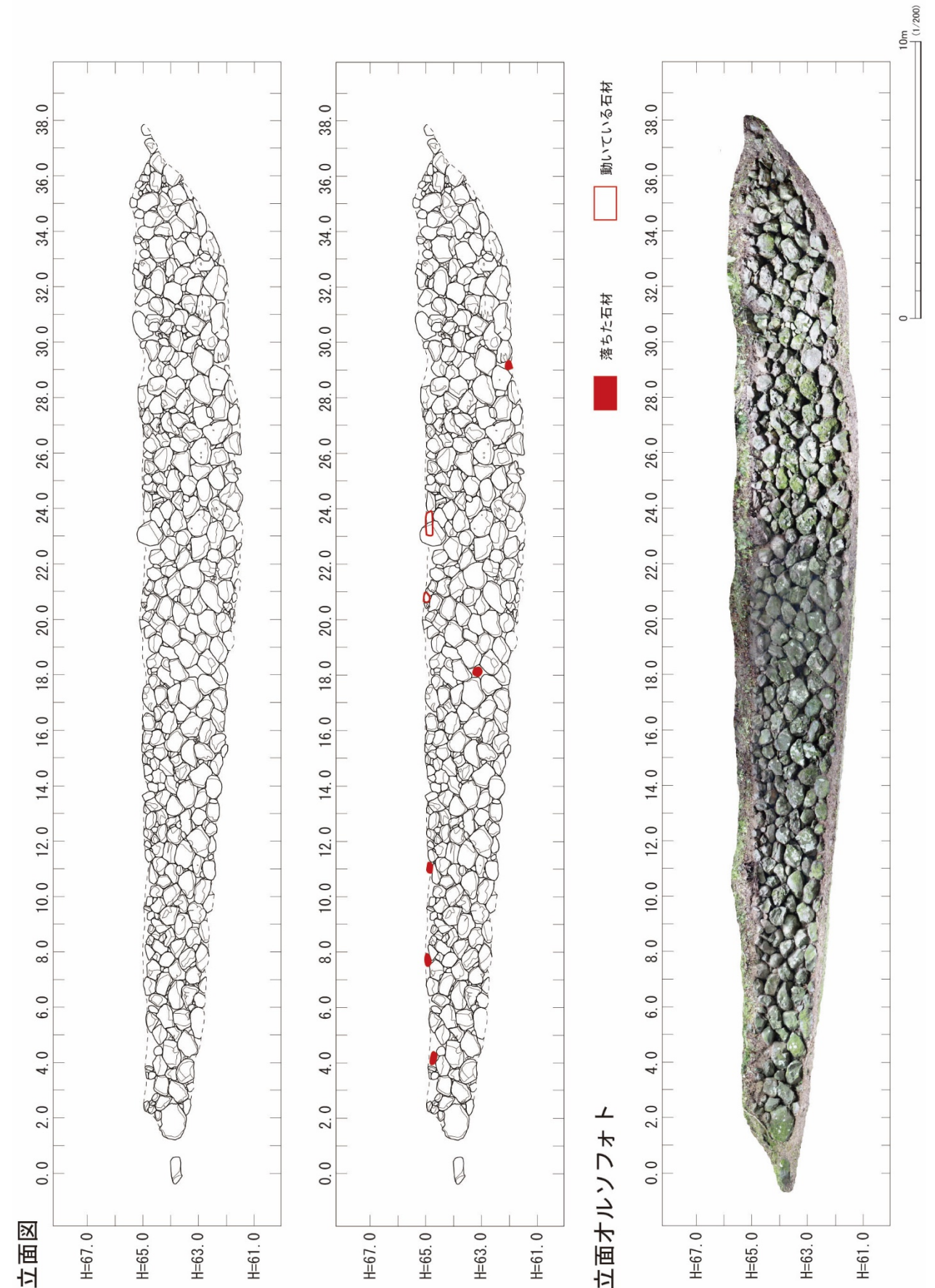
- ・野面積みが主体であることから近世初期段階と推定される。
- 幅1m以上の横長の自然石を横目地が比較的通るように積む傾向にある。石の間には、割石や玉石が間詰めされている。



第32図 沢門下石垣 測量位置図



第33図 石垣面に見られる積み方の違い



第34図 石垣立面図・立面オルソフォト